551.77(521.2)

関東南部の地層の大区分について

伊田一善* 三梨昂* 影山邦夫*

On the New Stratigraphic Division of Upper Cenozoic in Tokyo District

By

Kazuyoshi Ida, Takashi Mitsunashi & Kunio Kageyama

Abstract

Since 1924, the stratigraphic names of 28 groups, 3 systems and 20 series were proposed by many authors for the upper part of Cenozoic in Tokyo district. But two remarkable and widespread unconformities were recognized by detail survey, tried from 1949 till 1956. Therefore, writers proposed in this paper a new group name, Kazusa.

Sagami group (Pleistocene, Holocene)
—— (Naganuma-Kaigarazaka unconformity) ——
Kazusa group (Pliocene and uncertained Pleistocene)
—— (Kurotaki unconformity) ——

関東南部の新生代の地層は石油・天然ガス・沃度等の開発に関連し，経済的な必要から近年きわめて詳しい調査が行われ，細分され，次第にその大区分も実用上矛盾と不便さとを生じてきた。

従来この地域の上位の地層の大区分として提案されたおもなものは次の諸名称である。

秋元層群（亜層群）（階）
天津層群（層）（統）
池子層群（層）
小柴層群（統）（階）（層）
金沢統（階）（層）（層群）
黒滝層（層群）（統）
君津統（層）
鎌倉層群（層）（亜層群）（階）
清澄層（層群）
武蔵野系（層群）（層）（累層群）（統）
三浦層（層群）（統）
南多摩層群（層）（階）
瑞穂統（系）
成田層（層群）（統）（階）
長沼層（層群）（統）
鋸　層（層群）（統）
鋸山層（層群）（階）（統）
波太層（層群）
西畑層（統）（層群）（亜層群）
関層群（亜層群）（層）
下末吉層（層群）（統）
佐久間層（層群）
里見統
敷島系（統）
相模層群
鶴舞統（階）
豊岡層（亜層群）（統）（層群）
橘樹層群（層）
多摩層群
田浦層群
東京層（統）
梅ケ瀬層群（層）
横浜層群
逗子層（層群）（統）

これらはあるいは年代的層序区分として，あるいは岩相的層序区分[1]として用いられ，その個々の用い方は千差万別であり，こゝにとりあげなかつた累層，部層，階，亜階に至つては枚挙にいとまがないほどである。

これらの雑然とした呼称のいずれをとるかは，それぞれの調査研究者の主観と主張とに従うとはいえ，原則的には異名同義であることが明らかになるに従い，最初の提案者の呼称に慣例として従い，整理統合されるべきであることはいうまでもない。ところがこの各種の呼称の

* 燃料部

うち，われわれが多くの協力者とともに多年作業してきて到達した最終的な結論では，関東南部全域にわたる適当な境界が無いため，周知の黒滝不整合と長沼貝殻坂不整合とを地層の大区分の境界とすることがともに比較的広い地域にわたつて不整合として認識されているという理由から，また実用的立場からも妥当であると思う。長沼貝殻坂不整合は神奈川県と東京都で普通顕著であり，黒滝不整合は千葉県下で明瞭であり，神奈川県下では若干の地点で認められ始めている。東京都西部では下位の地層がはるかに古い地質時代のものであるため，現在のところ問題が無い。

そこで両者を境界とする層群の名称を既述した各種の呼称中から求めると類義のものに三浦層群，小柴層群，多摩層群がある。ところが三浦層群は本来，三浦半島で葉山層まで含めた名称であつたが，後に田越川礫岩の上位の部分と改められ，三転して池子層の基底から上位の地層名と主張するむきもでた。さらに房総半島に敷衍された場合，上位から秋元・関・豊岡の 3 亜層群に区分されている。これに従えば黒滝不整合は関・豊岡両亜層群の境界に位置し，豊岡亜層群の基底は不明瞭であるという矛盾がある。

次に小柴層群は元来，杉田・富岡・小柴層からなるとされていたが（植田，1930），後にこの呼称を，われわれの区分に最も近い浜・中里・小柴・大船・野島各層を指すと改められ（大塚，1934）たが，さらに同じ著者は元来の定義に戻した（大塚，1936）。多摩層群（徳永，1948）は下限を大矢部泥岩層としているが，この層は模式地（徳永他，1949）で僅か 2 m内外の厚さしかなく，模式地を重視する原則に従う限り結果として問題とする地層の下半部は含まれないこととなる。またこの著者は多摩層群という名称を後に三浦層群に改めた。したがつてこんにちではこの部分の地層の呼称として適当なものをみいだすことができない。

別の手段として，前述の多くの呼称のなかから適当なものを選び，これを改めて再定義することが考えられるが，それには最初の提案者の主旨に本来従うべきであり，またこれを改定することは例としてあげた三浦層群あるいは小柴層群の場合で明らかなように，煩雑さを増す以外に無い。

そこでこゝに上総層群という新しい名称を提案する。

相模層群[2)]
—（長沼貝殻坂不整合）—
上総層群
—（黒滝不整合）—
豊岡層群[註1)]

一般に層群を構成する個々の累層には模式地があるから，層群自体には模式地を必要としない。しかしながら上総層群の典型的な地層の賦存地域を指定すれば，千葉県養老川沿岸から勝浦町に至る間であつて，主要累層の模式地もこゝに選ばれている。たゞしこの地域では長沼貝殻坂不整合の延長と認められるものは現在確認されていない。こゝではしたがつて暫定的に笠森累層の上限をもつて上総層群の上限を代表させることが最も合理的であるらしく，房総西岸では東谷層下限，佐貫層上限を以つて境界と仮定する[3)]。

最後に年代的層序区分としては，従来の武蔵野系（ただし上部あるいは下部という名称はとらない）・敷島統・瑞穂統の 3 名称を残せば，さしあたつてよいと思われる。

（新区分）	（旧慣用区分）		（備　考）
相模層群	有楽町層		
	関東層		
	成田層群		=（長沼貝殻坂不整合）=
上総層群	三浦層群	秋元亜層群	
		関亜層群	=（黒滝不整合）=
豊岡層群[註2)]		豊岡亜層群	
	佐久間層群		

註 1，2） 豊岡層群という名称および区分については今後の検討にまつ。

参考文献

1） 日本地質学会地層命名規約〔学会記事〕，地質学雑誌，Vol. 58， No. 678， p. 112， 1952

2） 神奈川県編：神奈川県下の天然ガス地下資源，綜合計画資料，第 8 輯，1955

3） 品田芳二郎・安国昇・三梨昂：房総半島中部に分布する地層間の相互関係について，新生代の研究，No. 22，1955

4） 日本地質学会編：地層名辞典，日本新生界の部，A～N，1954～1956